

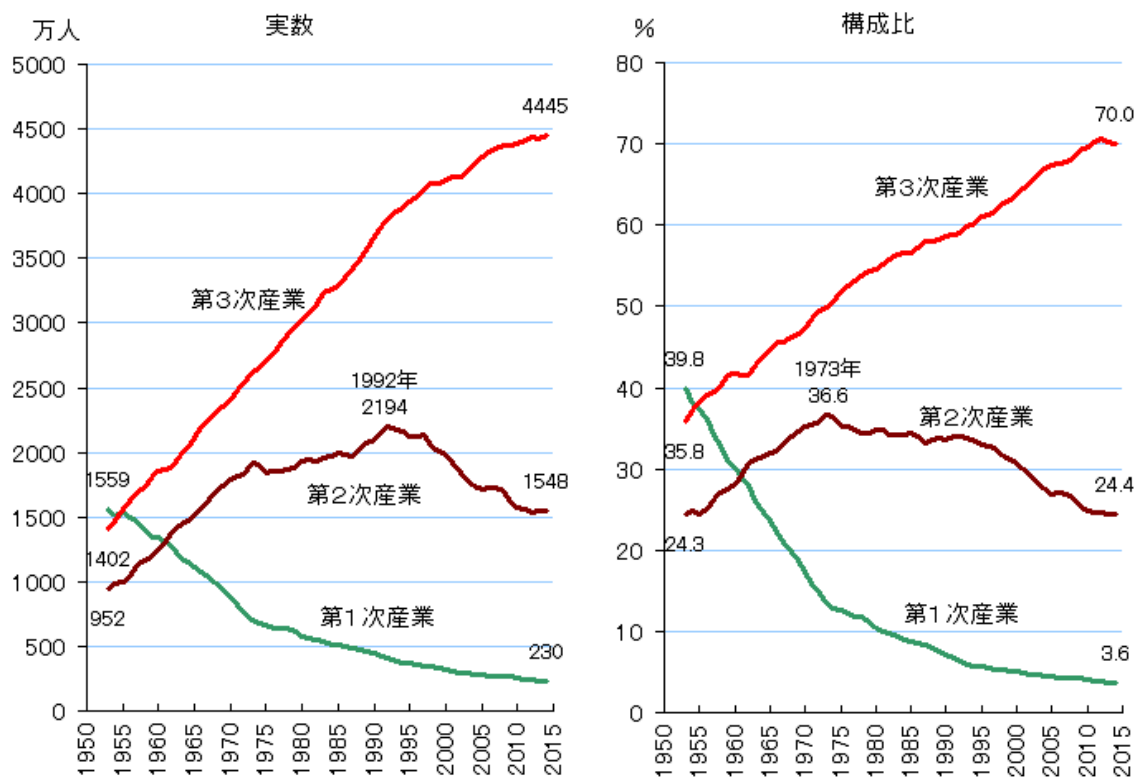
DAIRY北海道 22 ニュース

<http://www.dairyhokkaido.top/>

2016年 12月 10日号 編集発行人 運営委員会

出典 <http://www2.ttcn.ne.jp/honkawa/5240.html>

産業別就業者数の推移



(注)1953～2014年の各年データ。産業不詳の就業者があるため構成比の合計は必ずしも100となっていない。
(資料)労働力調査

農林水産省 食料需給表 転記・作成 資料

<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001150436>

別紙に 転記及び作成しました いろいろ論議や見方がありますが、糧としてご利用ください。
特に、国内生産と輸入の関係、飲用と加工の動向など 興味が尽きません。

農協の… 協同組合の起源 概要

<http://www.jkri.or.jp/PDF/2009/Rep103nogyo2.pdf#search=%E5%8D%94%E5%90%8C%E7%B5%84%E5%90%88%E3%81%AE%E6%BA%90%E6%B5%81>

協同組合とは 何なのか…？

今から遡るほど 2世紀前 1800年～1924年 「協同組合の父」と呼ばれる ロバート・オーエンが担ったのが、イギリス北部の ニューラナーク紡績工場である、

ロバート・オーエン 独自の教育システム

満18カ月になると「institute」、専任の教師を配置する工場の学校に移され、10歳から12歳まで教育を受け、工場の仕事に就いても20歳までは夜間の教育に通う。

その教育内容は、生きた「ワニ」を観察する 生物授業、人間と同じくらい大きい地球儀を使い世界の中のイギリスを立体的に学ぶ 地理、壁一面に張られたヨーロッパ各国の動向を示す複合型年表を利用して、国際関係の中での歴史教育が行なわれた。

また、音楽やダンスなども積極的に取り入れられ、それらは五感と全身で、知識と技能の基礎が築かれたのである。

更に、成人工員にも計画的に教育研修が準備され、生涯教育が施された。

工場敷地内に、掛買による借金や粗悪商品に騙されないように、安くて良質な商品を揃えた購買店舗、診療所が設置され、労働環境が整えられた。

大原幽学の 協同組合

1838年 房総半島 今の千葉県 旭市の地に協同組合が設立された。

先祖株組合は、加入者が農地を出資して、そこから生まれる利潤を無期限に積立て、地域の教育や地域づくりに役立てる方法である。

また、子供を他人の家で教育する「換子教育」をすすめたのも大原幽学である。

1900年代の初めに日本の企業経営者が訪れた記録もある。

のちに、日本式経営「終身雇用」「社内福利厚生」「社員教育」など、「学習する組織づくり」などのヒントをつかんだとされている。

参考までに。

日本最初の託児所は、1871年宣教師により、横浜の混血児救済施設とされています。

日本人の手による託児所開設は、1890年 新潟に開設、通学児の「子守り」開放であった。

1900年代は 紡績・製糸工員のための幼稚園、日露戦争での戦争孤児のための託児所、農村でも農繁期だけの農村季節託児所、そして1948年の児童福祉法に基づく保育所の開設に至る。

ロッチデール 協同組合が目指したもの…1844年

They realized, the knowledge is power、

貧困は、無知から生ずるものである。

1円でも安く、良質なバターを購入できても、彼らの生活は根本的に豊かになるものではない。豊かになるには、知識を身につけることである…。

ロッチデール公正先駆者組合(消費組合)が残り、今の協同組合法にも生かされている原則がある。

- (1) 加入の自由
 - (2) 1人1票の民主的運営
 - (3) 出資金への配当制限
 - (4) 組合員の組合利用に比例する余剰金配分
- などで、ロッチデール7原則と呼ばれ、今も脈々と生きている。

しかし…。

農林漁業協同組合整備促進法… 1954年(昭和28年)公布

連合会の経済事業立て直しの事業方式『整促方式七原則』は、今も居座り続けている。

- (1) 予約注文
- (2) 無条件委託
- (3) 全利用
- (4) 計画取引
- (5) 共同計算
- (6) 原価主義(実費主義手数料)
- (7) 現金決済(代金即時払い)

などの方式を指し、特に無条件委託は、各単協、地区連、連合会、全国連の各段階で付加金や手数料などを付加できる事業決済方式で、組合事業の原則のように居座っている。

農畜産物が値段の高い時は取り扱う農協の収入も多くなる、逆に農畜産物価格が安い時は組合員の経営は赤字になる、従って取り扱う農協も赤字になるので、少しでも高く売る必要がある。当たり前の事ですが、そんな仕組みこそが いま求められている。

良い物をたくさん作る、そんな努力に 生産農家は 日々明けくれます。

しかし、少しでも高く売りたい売りに 取り扱い農協の手数料がパーセントで付加されます。

高く売るための、少しでも付加価値の高いものは 生産農家の努力対価、評価でもある。

そんな生産農家ほど 取り扱い手数料の負担額を 担っている。

それは 生産農家が努力すればするほど比例する 負担額が増える付加方法でもある。

JAの総合事業を考える

http://www.jc-so-ken.or.jp/pdf/ja_report_writer/H-Kobayashi/32-14WI-H-Kobayashi.pdf#search='JA%E3%81%AE%E7%B7%8F%E5%90%88%E4%BA%8B%E6%A5%AD%E3%82%92%E8%80%83%E3%81%88%E3%82%8B'

http://www.jc-so-ken.or.jp/pdf/ja_report_writer/H-Kobayashi/150326_01.pdf#search='JA%E3%81%AE%E7%B7%8F%E5%90%88%E4%BA%8B%E6%A5%AD%E3%82%92%E8%80%83%E3%81%88%E3%82%8B'

南北 3000 ㊦余に及ぶ日本は、季節や風土、土質や生い茂る花木も違う。
そこで営む農業も 多様である、二毛作・裏作、輪作・間作など、農民の知恵でもある。
多様な農業や地域経済、それらを補完し担うのが、総合農協の所以でもある。

「猫の目農政」「亡国農政」の所以。

1966 年、昭和 41 年 3 月 不足払い法による 加工原料乳保証価格算定に関する国会審議での論議
当初の大臣説明は「算定の自家労賃は加工原料地帯の他産業従事者の賃金でやる…」と明言。
しかし、実際の審議では、それが「農業労賃」に すり替わっていたことに 審議会は大紛糾。
ときの政府説明は、「農業労賃は農業臨時雇用労賃で評価」とするものであった。

更に、1980 年 大手乳業による 約 15 万トンに迫る 授乳削減は、生乳指定団体に需給調整の
責任まで担わせる事となった。

2006 年 ついに 生乳指定団体が生乳約 1.000 トンを廃棄処理するに至る。

「需要に見合った生産」「超過ペナルティー」などを課し、そんな計画生産が農家の営農に重くの
しかかっている。

経済民主主義の到達点

私たちの身近には、農業・林業・漁業協同組合、生活協同組合、中小企業事業協同組合、医療生
活協同組合など、多様な協同組合が在ります。

協同組合は自主・自立・自治。

任意の民間団体が、小さな経済活動を通して奥深く国民経済の土台を築く、そんな経済的互助。
人が生きていくうえで欠く事ができない食糧、人の不断の営みに応える方法である。

また、世界中の国々が、近代国家であれば制度としてそれを持っている。それが協同組合法だ。協同組合法を、国の制度に組み入れている、経済民主主義を発展させる基礎でもある。独占禁止法の除外は、協同組合的事業方式を推し進め、経済民主主義を豊かにする担保である。

イギリスのEU離脱は、クローパル経済主義に大きな警鐘となっている。
また、アメリカのTPP不参加も、自国の「経済民主主義の障害になる」との理由もある。

2016年12月06日

麻生大臣：「質屋をやっているわけではないんだから、担保を取って金を貸しているだけでは意味がない！」

麻生大臣は、担保が少なくとも事業が有望な中小企業には、銀行がリスクを取って積極的に融資するよう金融機関のトップらに求めました。また、そのためには現場の目利き力が欠かせないとして、事業の成長力などを適切に評価できる行員の育成が必要だと指摘しました。金融庁では10月に公表した金融行政方針で、担保や保証がない相手には融資しない銀行の姿勢を「日本型金融排除」として、貸出姿勢の転換を求めています。

総合農協は 農業・農家経済を総合的に考える。

営農事業、家計・貯金・共済が併せ持つ、総合的指導金融事業が農協の特徴。

50年余の歴史を積み上げた 日本の総合農協の取り組みは 国際的にも高い評価を受けている。それは、日本の大部分の農業経営が「家族経営」で成り立っている、アメリカだって 約8割の農家は家族経営、我が国のそれを支えているのがJAの総合農協の強みである。

疲弊する国民経済に業を煮やす、先の大臣の発言は、「農協だってやっているのに 銀行は 何をやっているのか…？」とも、聞こえる。

地域経済や地方経済を豊かにする 準組合員制度

それぞれの地元経済を豊かにするのは、家族経営と取り巻く準組合員が必要である。

元農業の方、元JA職員、技術員やその家族、子弟など、農業への関わりが深い、またはとても強い関心が在るなど、すそ野が広い「よき理解者」のサポーターが心強い味方である。

ライフサイクルに根付く、家族農業を後押しする協同組合が地域経済再生の要でもある。

http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/11118/1/51_p95-106.pdf#search=%E5%8C%97%E6%B5%B7%E9%81%93%E3%81%AB%E3%81%8A%E3%81%91%E3%82%8B%E8%BE%B2%E5%8D%94%E7%B5%84%E5%90%88%E5%93%A1%E5%8B%98%E5%AE%9A%E3%81%A8%E5%96%B6%E8%BE%B2%E6%8C%87%E5%B0%8E%E4%BA%8B%E6%A5%AD

組合勘定取引、「組勤」クミカンはなぜ生まれたか、その背景。
連続する相次ぐ冷害、寒冷地に適する作物も少なく、窮貧に喘ぎ、累積債務だけが増えた時代。
米どころか麦やイナキビ…すら買えなかった時代、
学校の弁当は、吹かしたじゃが芋か茹でたトウモロコシ、それも半分とか、まさに地に這う草木で耐え忍んだ時期があった。

www.maff.go.jp/primaff/koho/seika/.../nriae1950-4-s2-5.pdf

自然災害に対応する方法として、その当時は、短期営農資金「農業手形」に負うものであった。
当時の手形歩合は、商業手形 1.40 に対し農業手形は 1.60 (単位:銭) の記録がある。
そこで登場したのが「販売仮渡金」 今の組勤の原型ともいえる。

将来の販売代金を前貸することで、営農に必要な資材や生活資金を掛け売りする仕組みである。
当然 希望する組合員は毎月の取引記録や計画及び実績対比、家計簿などを必要とした。
他方これらの取引に関し、与信規定や限度額などの不備を監査から「債権放漫」と見なされた。
しかし、営農計画、技術指導、年末の棚卸に加え、生活は収入の範囲内で暮らす、など特に営農指導の強化などで、その効果は徐々に上がったとされている。

今で云う、収支改善の方法として、1年で赤字なら 半年で決算する または4半期決算する、
更に毎月、毎週決算し その原因と解決策を図る その積み上げ方式である。
加えて、販売代金の一部を半ば強制的に預金し 与信取引担保とする方法もある。

農家の経済的階層分化

しかし農家を、A・B・C・Dに、経済的評価区分として階層分化に利用されたのも組勤である。
また、信用業務を営農指導員に担わせることで、JA職員とJA業務が複雑化する事となった。
バブル経済の崩壊やリーマンショックに始まり、多くの国内銀行が破たんする経済状況の中で、
減反と奨励金、国民経済の衰退、為替の変動と海外から洪水のように輸入される農畜産物、
そのような激動の農政の中でも ひたすら真面目に「物を作る」農家経済の支えとして組勤があった。
言い換えれば、「猫の目農政」「亡国農政」の後始末を担ったのも組勤と云える。

JAの経済的階層分化

組勤は組合員対農協の組合勘定取引である　しかしそれを取り扱う農協をも階層分化が進んだ。

ここに(平成11年05月)当時の　組勤貸出利率はJAごとに違う。

(JA名) (一般組勤)(営農範囲内)

A	4.00	-	I	4.75	0.60	Q	3.80	0.55
B	3.90	-	J	4.40	0.35	R	4.10	1.25
C	3.50	2.00	K	4.50	0.15	S	5.50	0.50
D	4.30	0.60	L	4.80	0.25	T	4.80	0.95
E	3.40	-	M	3.70	-	U	4.80	0.70
F	4.70	-	N	3.50	0.40	V	3.70	1.00
G	4.30	0.50	O	4.30	0.70	W	4.00	-
H	5.20	0.90	P	4.40	0.40	X	5.00	-

JAの信用事業はそれぞれが独立した金融事業である、従って預貯金の利率や貸出利率は、それぞれのJAで　その内容が異なる、また内部留保にも差が生まれる。

※ JAの内部留保とその蓄積過程、この項は別の機会に詳報します。

JAにも　はびこる、「トリクルダウン経済論」

JAにも　その評価として　連合会利用率などで　格差をつけています。

取り扱い量や販売金額、預貯金や共済の額を基に評価され　序列化します。

勢い組合員個々の経済よりも　経済規模に傾斜します。

JAは限られた組合員戸数の取り組みですから、増やすには効率化の名のもとに「JAの合併」に進みます。

農家にとって身近な存在のJAの事務所も、合併により　支所や出先に様変わります。

「あなたは…？　誰ですか…？」　久々に訪れた組合員への第一声です。

昔からの、少々態度はでかいけど憎めないベテラン職員は本所に、支所や出先は若い職員ばかりになり、「マニュアル通り」の組合員対応です。　おのずと、組合員と農協との関係が希薄になりがちです。

農業部門以外の資本への依存を高める南米の穀物生産

<http://lin.alic.go.jp/alic/month/domefore/2009/sep/gravure02.htm>

協同組合の自主・自立・自治を歪める

国家独占をお押し進め、エスノセントリズムによる同化政策が、自主、自立、自治の協同組合や農家金融の在り方を歪めようとしている、脈々と流れる組勘廃止・農協解体論の本質がある。

※ この項は 別の機会に詳報します。

<http://www8.cao.go.jp/kisei-kaikaku/suishin/meeting/wg/nogyo/20161111-2/agenda.html>

生乳指定団体制度と加工原料乳生産者補給金

先にも記述しましたが、本来は生乳の需給調整は、輸入品との兼ね合いで国家貿易管理です。いまは、その需給調整を指定団体が実質的に担っています。

指定団体には、全量無条件委託(極めて稀な不平等契約)で、酪農家は自分の生産生乳の用途の条件指定はできません。

加工原料乳生産者補給金は、指定団体が乳業メーカーに用途別に販売したときに、その差額を生産者自らも納める税金で補う仕組みです。

毎日、酪農家はミルカーで搾乳しますが そこには用途別の単価はありません。

しかし乳業メーカーは バターやチーズを作るときに 受け入れ原料乳に厳しい条件を付けます 従って、乳業の受け入れ条件が用途別単価になります、当然為替や海外の相場も気になります。それらの需要に応える 国内の仕組みが 指定団体制度となります。

乳業と酪農家戸々との戸別交渉から、酪農家を組織化することで 団体交渉へと進みました。しかし、指定団体の交渉相手は、全国的に展開する乳業も在れば、地域の中小乳業もあります。大量取引相手の取引価格が主流になり 中小乳業の声が反映されにくいとの声もあります。

更に、指定団体の乳業からの受取乳代を 酪農家に支払う基準や、その計算の内容が複雑化し、JA担当者ですら 説明しきれていない…との指摘もあります。

そして、指定団体ごとの 毎月の乳代精算が 公にされていません。

また、乳業からは 指定団体との成分取引は、飲用店舗価格に反映しにくい…との声もあります。

酪農家への、全量無条件委託契約(極めて稀な不平等契約)の裏側には、委託品の完全全量販売(売り切り)や、酪農家への再生産可能は販売代金が課せられる …そういう性格の契約ではないでしょうか…?

契約とは、対等の内容により 双方の合意で成約するものではないでしょうか。

それはJAの行う全て全事業に共通する内容でしょう。

前述した、営農事業、家計・貯金・共済が併せ持つ、総合的指導金融事業が農協の特徴ですが、それらに冠する「指導」の内容とは、組合員の所得に寄与する 事でしょう。

シンプルな 一物一価から 一物多価に 変化する生産現場

いま米は食用に加え、飼料米や他の業務米とか、その用途範囲が広がっています。

じゃが芋も、生食、加工、でんぷん原料などです。

用途による 買入れ格差は 今後も多岐に広がるでしょう。

更に、季節や天候に関係なく 安定供給の名の 年中無休に移行するでしょう。

<http://www.cnn.co.jp/business/35044552.html>

西アフリカの児童強制労働の現実を探ったドキュメンタリー

「Chocolate's Child Slaves」

お気づきでしょうが… 農業のオートメーション化です。動植物生産工場化です。

大きな歯車を動かす小さな部品 ちょっと出来が悪いけど 使用するに耐えうる部品。

摩耗したり、負荷がかかりすぎると すぐに、スペアの部品に取り替えます。

でも 出来が多少悪くても 見栄えが悪くても 部品がないと大きな歯車は動きません。

需要がなくても、欲望を掻き立てて 需要を作って売り込む、都会に暮らし、借金コンクリートの家に住み、流行りの衣装に身を纏い、響きの良い文句に日々右往左往する、そして何よりも「お金が大切」そんな 何でもお金で片づける拝金主義が当たり前の世界になっています。

効率一辺倒は、団地化、共同化、機械化、装置化、システム化へと進化し、市場という名や顔の見えない消費者の御用聞きになっていないか。

農業者は食料生産から飼料と化した食材原料作りになっていないか…。

現場を顧みない、数字だけが横行する、数字至上主義になっていないか…

総合農協は、そんな市場のニーズを変え、国民に安心と安全を届ける拠り所になる必要がある 何よりも 地元経済を豊かにし、生産者や消費者へのリーダーシップが いま求められています。

<https://www.gohongi-beauty.jp/blog/?p=12662>

行き過ぎた「健康食品への信仰」オーガニックブーム

グローバルな企業による付加価値の道具として、その原料基準、食材調達基準が、HACCPであり、GAP (Good Agricultural Practice) であり、最終消費者を誤認させるための手法として取り組まれている。

【参考までに】

ムヒカ大統領のリオ会議スピーチ：（訳：打村明）

会場にお越しの政府や代表のみなさま、ありがとうございます。

ここに招待いただいたブラジルとディルマ・ルセフ大統領に感謝いたします。私の前に、ここに立って演説した快きプレゼンターのみなさまにも感謝いたします。国を代表する者同士、人類が必要であろう国同士の決議を議決しなければならない素直な志をここで表現しているのだと思います。

しかし、頭の中にある厳しい疑問を声に出させてください。午後からずっと話されていたことは持続可能な発展と世界の貧困をなくすことでした。私たちの本音は何なのでしょう？現在の裕福な国々の発展と消費モデルを真似することでしょうか？

質問をさせてください：ドイツ人が一世帯で持つ車と同じ数の車をインド人が持てばこの惑星はどうなるのでしょうか。

息するための酸素がどれくらい残るのでしょうか。同じ質問を別の言い方ですると、西洋の富裕社会が持つ同じ傲慢な消費を世界の70億～80億人の人ができるほどの原料がこの地球にあるのでしょうか？可能ですか？それとも別の議論をしなければならないのでしょうか？

なぜ私たちはこのような社会を作ってしまったのですか？

マーケットエコノミーの子供、資本主義の子供たち、即ち私たちが間違いなくこの無限の消費と発展を求める社会を作ってきたのです。マーケット経済がマーケット社会を造り、このグローバリゼーションが世界のあちこちまで原料を探し求める社会にしたのではないのでしょうか。

私たちがグローバリゼーションをコントロールしていますか？あるいはグローバリゼーションが私たちをコントロールしているのではないのでしょうか？

このような残酷な競争で成り立つ消費主義社会で「みんなの世界を良くしていこう」というような共存共栄な議論はできるのでしょうか？どこまでが仲間でどこからがライバルなのですか？

このようなことを言うのはこのイベントの重要性を批判するためのものではありません。その逆です。我々の前に立つ巨大な危機問題は環境危機ではありません、政治的な危機問題なのです。

現代に至っては、人類が作ったこの大きな勢力をコントロールしきれていません。逆に、人類がこの消費社会にコントロールされているのです。私たちは発展するために生まれてきているわけではありません。幸せになるためにこの地球にやってきたのです。人生は短い、すぐ目の前を過ぎてしまいます。命よりも高価なものは存在しません。

ハイパー消費が世界を壊しているのにも関わらず、高価な商品やライフスタイルのために人生を放り出しているのです。消費が社会のモーターの世界では私たちは消費をひたすら早く多くしなくてはなりません。消費が止まれば経済が麻痺し、経済が麻痺すれば不況のお化けがみんなの前に現れるのです。

このハイパー消費を続けるためには商品の寿命を縮め、できるだけ多く売らなければなりません。ということは、10万時間持つ電球を作れるのに、1000時間しか持たない電球しか売ってはいけない社会にいるのです！そんな長く持つ電球はマーケットに良くないので作ってはいけません。人がもっと働くため、もっと売るために「使い捨ての社会」を続けなければならないのです。悪循環の中にいるのにお気づきでしょうか。これはまぎれもなく政治問題ですし、この問題を別の解決の道に私たち首脳は世界を導かなければなりません。

石器時代に戻れとは言っていません。マーケットをまたコントロールしなければならないと言っているのです。私の謙虚な考え方では、これは政治問題です。

昔の賢明な方々、[エピクロス](#)、[セネカ](#)や[アイマラ民族](#)までこんなことを言っています
「貧乏なひとは、少ししかものを持っていない人ではなく、無限の欲があり、いくらあっても満足しない人のことだ」
これはこの議論にとって文化的なキーポイントだと思います。

国の代表者としてリオ会議の決議や会合にそういう気持ちで参加しています。私のスピーチの中には耳が痛くなるような言葉がけっこうあると思いますが、みなさんには水源危機と環境危機が問題源でないことを分かってほしいのです。

根本的な問題は私たちが実行した社会モデルなのです。そして、改めて見直さなければならぬのは私たちの生活スタイルだということ。

私は環境資源に恵まれている小さな国の代表です。私の国には300万人ほどの国民しかいません。でも、世界でもっとも美味しい1300万頭の牛が私の国にはあります。羊も800万から1000万頭ほどいます。私の国は食べ物の輸出国です。こんな小さい国なのに領土の90%が資源豊富なのです。

私の同志である労働者たちは、8時間労働を成立させるために戦いました。そして今では、6時間労働を獲得した人もいます。しかしながら、6時間労働になった人たちは別の仕事もしており、結局は以前よりも長時間働いています。なぜか？バイク、車、などのリポ払いやローンを支払わないといけないのです。毎月2倍働き、ローンを払って行ったら、いつの間にか私のような老人になっているのです。私と同じく、幸福な人生が目の前を一瞬で過ぎてしまいます。

そして自分にこんな質問を投げかけます：これが人類の運命なのか？私の言っていることはとてもシンプルなものですよ：発展は幸福を阻害するものであってはいけません。発展は人類に幸福をもたらすものでなくてはなりません。愛情や人間関係、子どもを育てること、友達を持つこと、そして必要最低限のものを持つこと。これらをもたらすべきなのです。

幸福が私たちのもっとも大切なものだからです。環境のために戦うのであれば、人類の幸福こそが環境の一番大切な要素であるということを覚えておかななくてはなりません。
ありがとうございました。

参照元 Read the original here:

<http://hana.bi/2012/07/mujica-speech-nihongo/#ixzz4U55wvYe9>

Under Creative Commons License: [Attribution Non-Commercial](#)

Follow us: [@hanabiweb on Twitter](#) | [hanabiweb on Facebook](#)

